あなたにできること、きっとある。

もっと知りたい、里親のこと

さまざまな迎え入れ方があります

養育里親

18歳未満の子どもを、家庭に戻るまでの間や自立するまでの間、養育します。期間は1年以内の短期の場合もあれば、それ以上の長期の場合もあります。

養子縁組里親

養子縁組を結ぶことが前提です。養子縁組が成立するまでの間、里親として一緒に生活します。

季節・週末里親

週末や長期休暇などに、数日から1週間ほど子どもを養育します。平日は子どもとの時間が取れない人や、最初から長期で養育するのが不安な人などに向いています。

子どもを迎え入れるまでの4ステップ

STEP 1 相談
児童相談所や里親支援機関に相談を。里親の条件や手続きなどを説明します。

STEP 2 研修・家庭訪問
児童養護施設や乳児院などでの実習を含む数日間の研修と、家庭環境の調査があります。

STEP 3 登録
都道府県等の審査を経て、里親として登録されます。

STEP 4 交流
面会や数時間の外出、宿泊などで、子どもと一緒に過ごします。

子どもを家庭に迎え入れる

養育費が支給されます

子どもを育てるために必要な
生活費、教育費、医療費などが
支給されるので、安心して養育できます。

里親手当

1人あたり	9万円／月

生活費

乳児	約6万円／月
乳児以外	約5万2千円／月

※養育里親の場合。
※その他、教育費や医療費なども支給されます。

里親Q&A

Q 特別な準備が必要なの？

A 所定の研修を受け、子どもに適した住環境があるなどの要件を満たしていれば、特別な準備は必要ありません。保護を必要とする子どもに寄り添い、あたたかい愛情と正しい理解をもって接することができれば大丈夫です。

Q 共働きでも大丈夫？

A 基本的に問題ありません。ただし、子どもの養育に支障がでる場合は調整が必要なこともあります。親と離れて暮らすことになった子どもの気持ちに寄り添うことが大切です。

Q 実子がいても里親になれる？

A なれます。実の子どもに里親になることを伝え、理解を得たうえで、新しい家族を迎えるのが理想です。実の子どもの年齢や性別を考慮して、委託する子どもを決めることもあります。

里親制度について知りたい

朝日新聞デジタル 特設サイト
「広げよう『里親』の輪」
https://globe.asahi.com/globe/extra/satooyanowa/index.html

厚生労働省 里親制度　全国里親会　日本ファミリーホーム協議会

里親になりたい

お近くの児童相談所にお問い合わせください。

児童相談所
相談専用ダイヤル 0570-783189（なやみいちはやく）

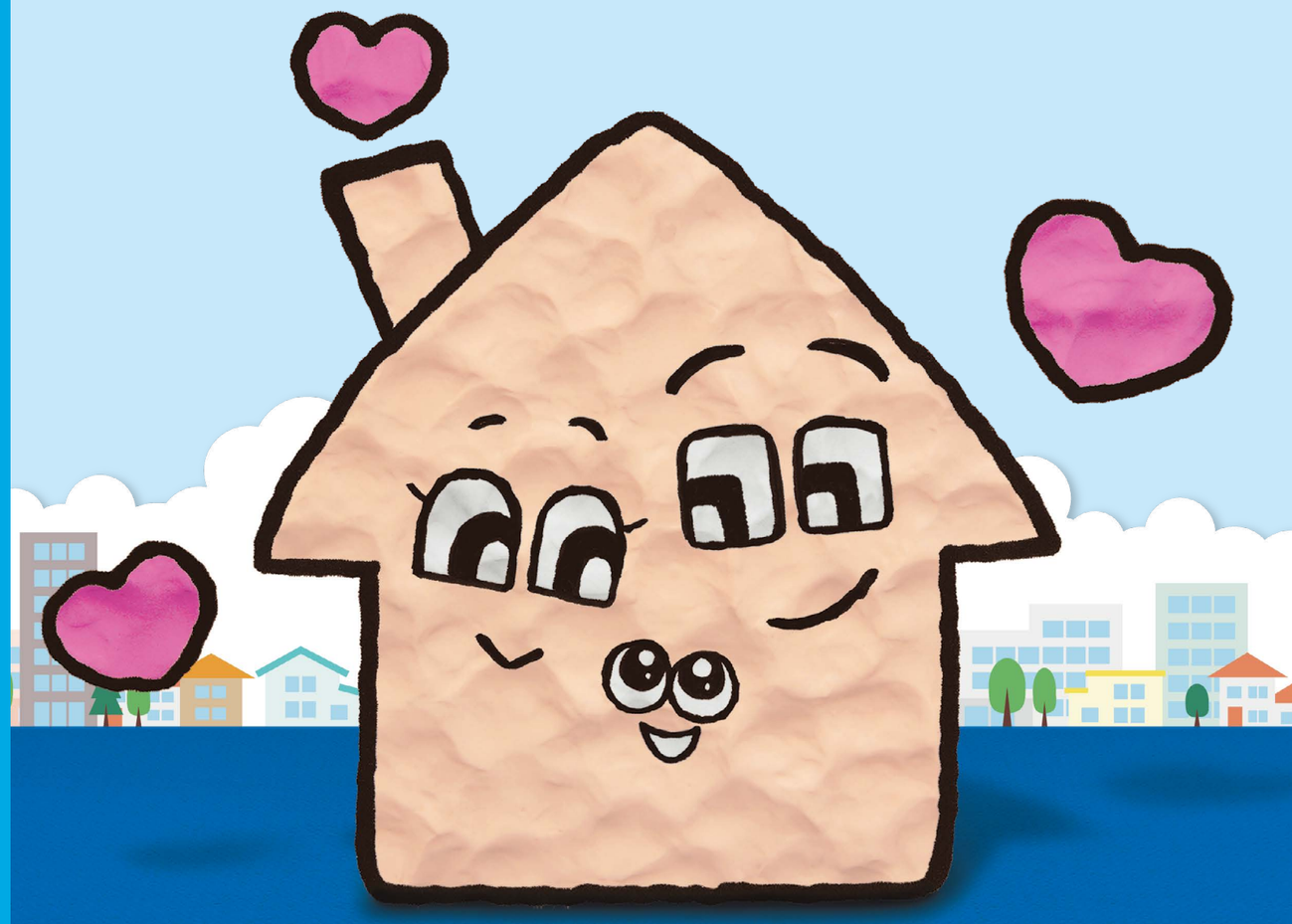
インターネット 全国児童相談所一覧

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

あたたかい家庭を必要としている子どもたちがいます

広げよう「里親」の輪

家庭のあたたかさを知らない子どもたち。当たり前の日常が得られない子どもたち。
それぞれの事情で家族と離れて暮らす子どもを自分の家庭に迎え入れ、
さまざまなサポートを受けながら養育するのが「里親制度」です。



キャラクターデザイン：伊藤有壱
いとう・ゆういち／アニメーションディレクター。NHK Eテレ「プチプチ・アニメ」に登場するクレイアニメ「ニャッキ!」他、数多くの企業CMやTV番組などを手がける。

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

里親STORY

日本には、さまざまな理由により親と暮らすことができない子どもたちが約4万5千人います。子どもたちの心のケアと健やかな成長には、家庭に迎え入れられ、自分が愛されていると実感できることが大切です。子どもが置かれた状況に一つとして同じケースはないからこそ、里親にまつわる物語も十人十色です。

CASE 1

現役里親

斎藤さん夫妻の場合

「世界一愛して育ててくれる親」のよろこび

斎藤竜さん、**直巨**さん

2008年に里親登録をしました。2010年に子どもを迎え入れて里親を始めた当時、東京都中野区の一軒家で2人の娘、義母と5人で暮らしながら、会社員（竜さん）とWEBデザイナー（直巨さん）の共働きでしたが、不安だったということはありませんでした。当時、下の娘も保育園に通っていましたので、児童相談所の方が同じ保育園に通えるように一緒に考えてくれました。

地元の里親会を見回すと、共働き世帯の里親家庭が多いですね。一般的な子育てでも利用する保育園やファミリーサポートといった、地域にあるサービスを上手に利用している里親さんは周囲に多いですよ。

私たちは「かわいそうだから」ということで里親を始めたわけではありません。そういう思いが強いと、「何かしてあげよう」と過剰に考えてしまい空回りしてしまいます。私たちも里親を始めた頃は、「しっかり育てなければ」「ちゃんと生きていけるようにしなければ」と力み過ぎていました。本当は、子どもが安心できて、本音を言っても受け止めてもらえる関係を作ることが大切だったんですよね。

里親家庭を始める前の準備も大切ですね。「自分がしてきた子育てで対応できるだろうか」といった不安を小さくできたのは、地元の里親が集まる月1回の「里親サロン」に通い、困った時に直接相談できる先輩の里親とのつながりができたからです。

迎え入れて10年になる子どもは、私たちのことを「りょうさん」「なおさん」と名前で呼んでくれます。その子にとって「お母さん」は生んでくれた母親です。私たちのことは、「世界一愛して育ててくれる親」と思っているからと言われた時は、いつもの呼び名はパパママではないけれど、親として信頼してくれているんだと分かり、うれしかったです。

PROFILE

さいとう・りょう／1966年、東京都生まれ。会社員。さいとう・なおみ／1975年、東京都生まれ。一般社団法人「グローハッピー」代表理事。夫婦には19歳と14歳の娘がいる。長期里親のほかに、短期里親、一時保護の子どもをこれまで5人受け入れている。

CASE 2

元委託児童

川嶋さんの場合

自分だけを見つめてくれる人がいたら救われる

シンガーソングライター　**川嶋あい**さん

生まれてすぐに乳児院に預けられ、3歳の頃に、地元福岡の児童養護施設で川島家（本名）の父と母に出会いました。たまに会いに来てくれる人という感覚で、この2人がお父さん、お母さんなんだろうなと思っていました。心の中で「早くお家に連れて帰ってくれないかな」と思っていたのを覚えています。

父と母と3人での生活が始まり、愛情をたっぷり注がれて暮らしていました。父は夕ご飯の後や寝る前にオセロゲームやトランプをしてくれました。母は音楽を学ぶきっかけを与えてくれて、「ずっと歌を歌っていてほしい」「歌手になる夢をかなえてほしい」と願っていました。

実は約2年前、故郷の音楽教室の先生から、私は当時、毎日のように「施設に帰りたい」と泣いていて、育児相談に行ったことがレッスンに通うきっかけだったということを教えてもらいました。母は、歌うことでこの子が笑顔になるのならずっと歌っていてもらおう、そういう感覚だったのかな。

子どもって自分だけ見つめてくれる人が、たった1人でもいてくれると救われるし、明日をがんばろうという気持ちになれます。私にとっては、育ててくれた父と母です。親子げんかもたくさんしました。中学生になって自分の「出生」を知った時は、苦しくて悲しくて。でも母は変わらぬ態度で接してくれたし、私もこのことを「引き出しに置いておく」ことで前に進めました。

最初の一歩は生んでくれた母親だと思いますが、「命のバトン」を育ててくれた両親が受け取り、さらに路上ライブで出会ったみんなや今のスタッフのみなさんが受け取ってくれました。血じゃなくて、一緒に過ごした時間、誰かを思う気持ちなんです。

PROFILE

かわしま・あい／1986年生まれ。2002年から路上で歌い始め、I WiSHのaiとして「明日への扉」でデビュー。06年からソロ活動をスタート。代表曲に、卒業ソングの定番「旅立ちの日に…」、「My Love」「compass」「大丈夫だよ」「とびら」など。

CASE 3

フォスタリング機関

渡邊さんの場合

これからの里親は「地域力」向上がカギ

NPO法人キーアセット代表理事　**渡邊 守**さん

両親はベテランの里親で、地域の方々や里親会のみなさんとのつながりもありました。短期から長期までたくさんの子どもを養育してきていましたが、3歳から養育していた男の子が中高生になると荒れだしてしまいました。母は「命を削ってでも絶対に育て上げる」と言い張っていましたが、男の子に聞くと「普通の生活」がしたいと言っていました。60代後半の両親は中高生の考え方についていけなかったのかもしれません。男の子は私が里親になって引き取りましたが、母は2年後に亡くなりました。

本当に命を削ってやっていたんだなと思いました。でも同時に、里親って命を削ってやることじゃないと思うのです。

何かが欠けているんだろうと思いました。そんな時、イギリスでフォスタリング機関（里親養育包括支援機関）の会長から、日本で里親養育充実のためのソーシャルワークができるかリサーチしてみるように言われたのがきっかけでNPO法人を立ち上げました。

日本の里親制度は、子どものニーズに応えるスピード感をもって支援環境を充実させれば、多様な家庭に里親という生き方を選んでもらえるはずです。それでも、いまだに委託された子どもの養育に関わる課題をできるだけ抱え込んでくれる里親を求めている地域があるのではないかと感じています。里親個人だけに、養育上の課題解決や必要な地域資源の発掘ができると期待するのは、日本がめざす「社会的養育」にそぐわないと思います。これから燃え尽きるようなリスクを里親に背負わせないために必要なのが、現代社会の生活スタイルに合った里親のリクルート、研修、委託後の家庭訪問などによる支援を包括的に行うことです。

共働き世帯が当たり前の時代になっただけでなく家庭のかたちも多様になりました。多様な家庭の方々にも里親という生き方を選んでいただけるよう、児童相談所を中心に私たちのような関係機関が、支援する体制をこれからも充実させていきます。

PROFILE

わたなべ・まもる／NPO法人キーアセット代表理事。2006年に里親登録をして関わり始め、10年に現在の里親支援の団体を設立。現在、大阪、東京、川崎、福岡、埼玉、千葉に事務所を置き、六つの自治体から里親支援に関する事業を受託している。

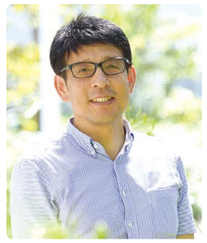
CASE 4

有識者

林さんの場合

「生きる力」を育む里親家庭

日本女子大学教授（社会福祉学）　**林 浩康**さん



子どもに対する親の影響が強まってきています。家庭内で何が起きているかは外から見えづらく、子どもにとって「親にしか頼れない」「親にも頼れない」という状況は心配です。人間関係が希薄化した社会になり、「子どもの居場所」や「逃げ込んでいく場」を社会全体が努力して作っていかなければならない時代なのです。

「生きる力」という言葉を最近聞く機会が増えました。「生きる力」とは、「非認知能力」と言い換えることができます。それは自尊感情、忍耐力、対人関係能力、危機に対応する力などを意味します。安心して生活できる体験、安心して甘えられる体験が、「生きる力」を育むことにもつながります。しかし、私たちの社会を見回してみると、全ての子どもにそうした体験を提供できているでしょうか。

子どもが自立していくために培うものの中には、家庭生活の中で自然に身につくことがあります。みなさんも幼いころ、おままごとをして遊んだ経験がありますよね。しかし、物心ついたころから施設で暮らしていると、子どもの中には里親家庭に迎えられた時、おままごとができないということがあります。ハッとさせられます。

これからは家庭をベースにした里親制度の普及がより必要な時代です。子どもの育ちを支え、里親の負担感を軽減するため、政府や自治体は近年、「チーム養育」と言われるように里親養育支援の体制を充実させてきています。生みの親が育てられない子どもは、社会が責任を持って育てなければいけません。社会的養護の「社会」の中には市民も含まれます。

PROFILE

はやし・ひろやす／日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授。専門は社会福祉学。社会的養護や子どもの支援のあり方をテーマに取り組んでおり、当事者たちの声に耳を傾けることを基本としている。

フォスタリングマークについて

里親制度を広めるとともに、里親家庭を社会で支えるための支援の輪が広がることを願って作られたシンボルマークです。

里親が育てる。
社会が支える。

特設サイト公開中!

インタビューの全文を、朝日新聞デジタルの特設サイトで紹介しています。里親制度について気になること、知りたいことも公開中。ぜひご覧ください。

朝日新聞デジタル 特設サイト「広げよう『里親』の輪」　https://globe.asahi.com/globe/extra/satooyanowa/index.html